

授業科目名	医療人文学	担当教員	足立智孝
選択	開講年次：1年前期	単位：1単位	授業形態：講義 15時間

【授業概要】

文学作品には、人間をテーマとして扱ったものが多く、必然的に「生・老・病・死」に関する内容が多く含まれる。本コースでは、これらの医療に関係する小説（フィクション、ノンフィクション）、詩、随筆などを取り上げ、医療者や患者・障害者、あるいはその家族の感情の機微に対する理解を深めるとともに、その医療が行われた時代状況や、社会制度を俯瞰し、医療を多角的に捉える視点を学ぶ。

【授業目的・目標】

1. 医療文学の多様性を知り、患者やその家族を多面的に理解する視点を養う。
2. 時代状況や制度的観点から医療を捉える視点を身に付ける。
3. 物語能力（読み取る力（読解力）及び書く力）を高める。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] インTRODクシヨン：文学と医療
- [02] 医療のあり方：柳澤桂子『認められぬ病』
- [03] 死者を見送ること：滝田洋二郎監督『おくりびと』映画
- [04] 障がいを持つこと：多田富雄『寡黙なる巨人』
- [05] 認知症を患うこと1：堤幸彦監督『明日の記憶』映画
- [06] 認知症を患うこと2：有吉佐和子『恍惚の人』
- [07] 家族の死を看取ること：砂田麻美監督『エンディングノート』映画
- [08] 死を迎えること：トルストイ『イワン・イリイチの死』

【教科書】

1. 柳澤桂子（1998）認められぬ病，中公文庫
2. 多田富雄（2010）寡黙なる巨人，集英社文庫
3. トルストイ（2006）イワン・イリイチの死，光文社古典新訳文庫
4. 有吉佐和子（1972）恍惚の人，新潮文庫

【参考書】

1. 青木新門（1996）納棺夫日記，文春文庫
2. 荻原浩（2007）明日の記憶，光文社文庫

【評価方法・評価基準】

授業課題レポート（60%）、学期末レポート（40%）

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：事前課題に沿って教科書を精読する。事後学習：授業内討論をふり返る。

事後学習：講義資料ならびに返却リフレクティブレポートをもとに、授業の振り返りをする。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業課題レポートについては授業中にフィードバックを行う。学期末レポートは評価後に返却する。

【備考】

特になし